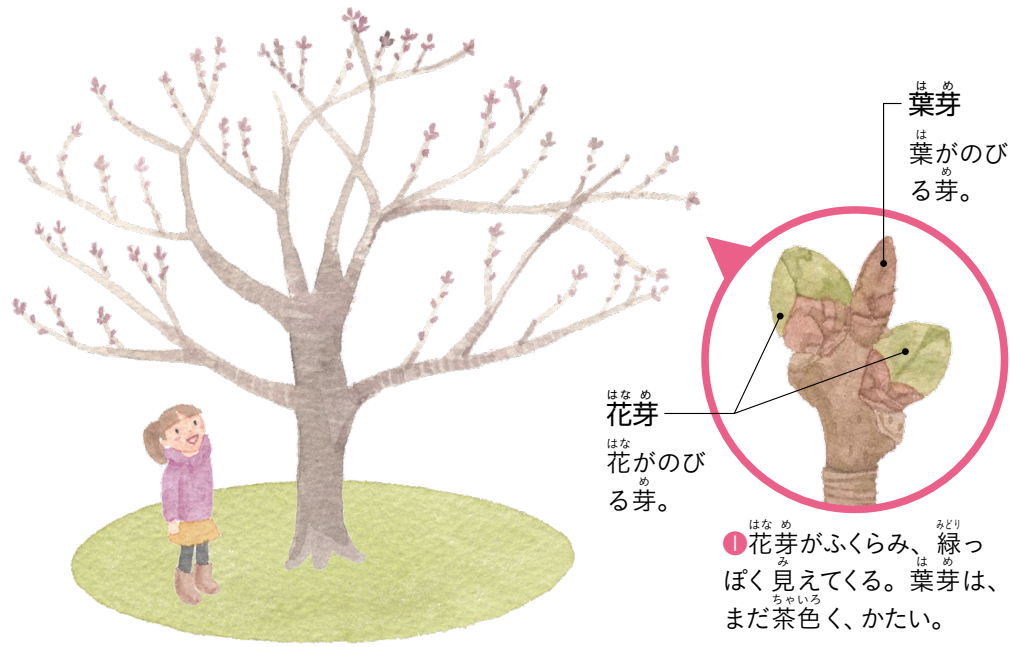


さくらの1年を見てみよう

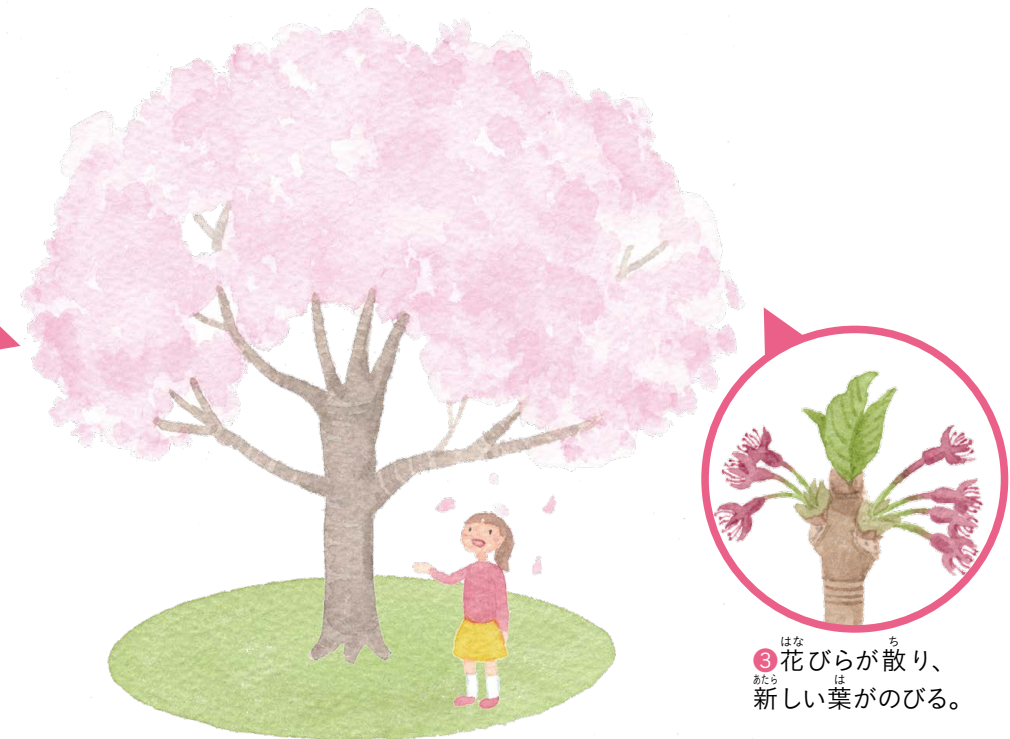
さくらは、春、夏、秋、冬をどのようにすごすのでしょうか？
 ‘そめいよしの’を例に1年の様子を見ていきましょう。

春

早春、えだの先の花芽がふくらんできます。
 あたたかくなるにつれ、花芽からつぼみが出てきて、花がさきます。花に続いて、新しい葉が出てきます（→11ページ）。



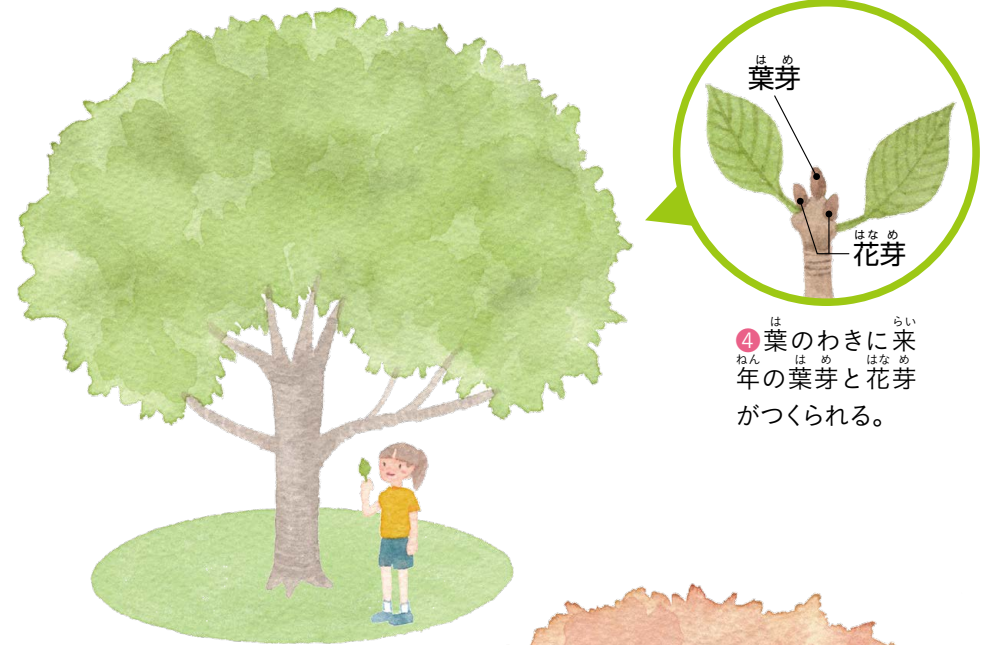
②花がさく。葉芽がふくらみ、葉が外へ出てくる。



③花びらが散り、新しい葉がのびる。

夏

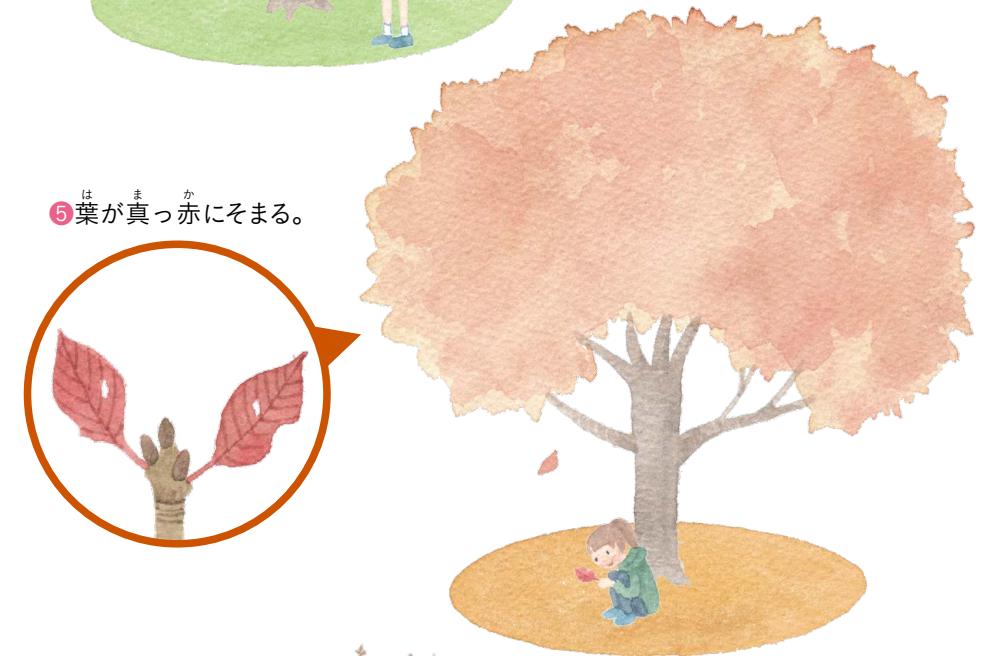
葉の緑色がだんだんこくになっていきます。葉のわきには、来年の芽がつくられます（→13ページ）。



④葉のわきに来年の葉芽と花芽がつくられる。

秋

すずしくなってくると、葉の色が緑から黄色、赤へと変わり、冬にそなえて葉を落とします（→14ページ）。



⑤葉が真っ赤にそまる。

冬

すべての葉を落としてえだだけになり、じっとねむって春を待ちます。冬を乗りこえるための芽を「冬芽（→17ページ）」といます。



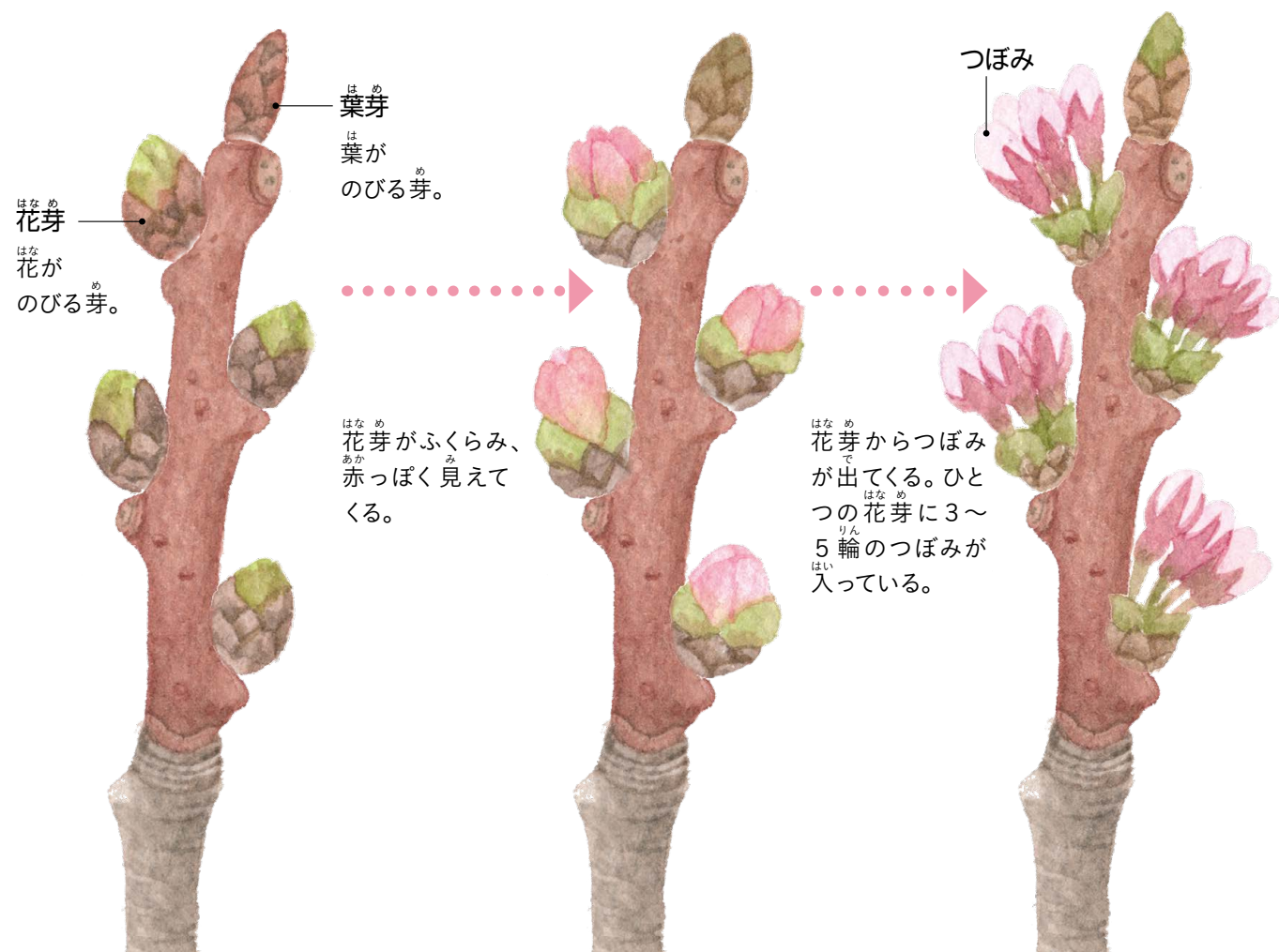
⑥葉が落ち、冬芽だけになる。

さくらの1年 春

寒い冬が終わり、少しずつあたたかくなってきました。さくらの花芽のなかでは、春本番に向けて、花がさくじゅんびをしています。

花芽からつぼみが出てくる

えだの先や横には、小さな花芽や葉芽がついています。花芽は、あたたかくなるにつれ少しずつふくらみます。やがて、花芽のなかからつぼみが飛び出します。

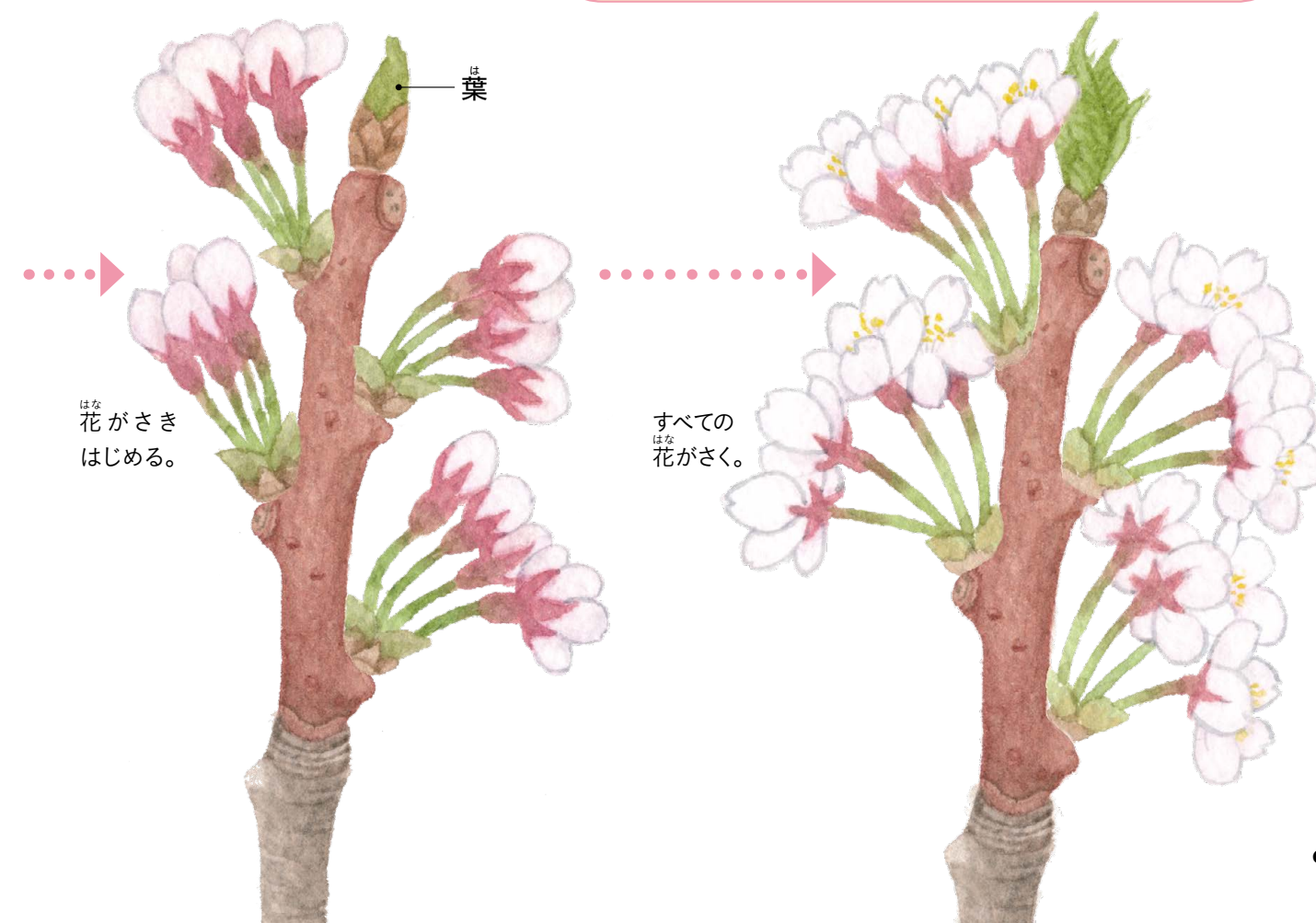


花がさきはじめる

さくらの花がさきました。つぼみはピンク色ですが、開いた花は白です。木全体では、1週間ぐらいかけて満開になります。

花がさくと、ミツバチなど、さまざまな虫が花のみつをもとめてやってきます（→36ページ）。

また、葉芽のなかには、新しい葉が折りたたまれて入っていて（→17ページ）、花がさくころ、外へのびてきます。



満開までの言葉

花見に出かけるときの目安となる、「〇分ざき」とは、さくらの花のさき具合のことです。気象庁では、きじゅんとなるさくらの木（標本木→2巻）を決めていて、その木がどのくらい開花したのか、開花の様子を観そくしています。

開花 5～6輪の花がさいたころ。



三分ざき 3わりの花がさいたころ。



五分ざき 半分ぐらいの花がさいたころ。



満開 8わり以上の花がさいたころ。



はな さくらの花のつくり

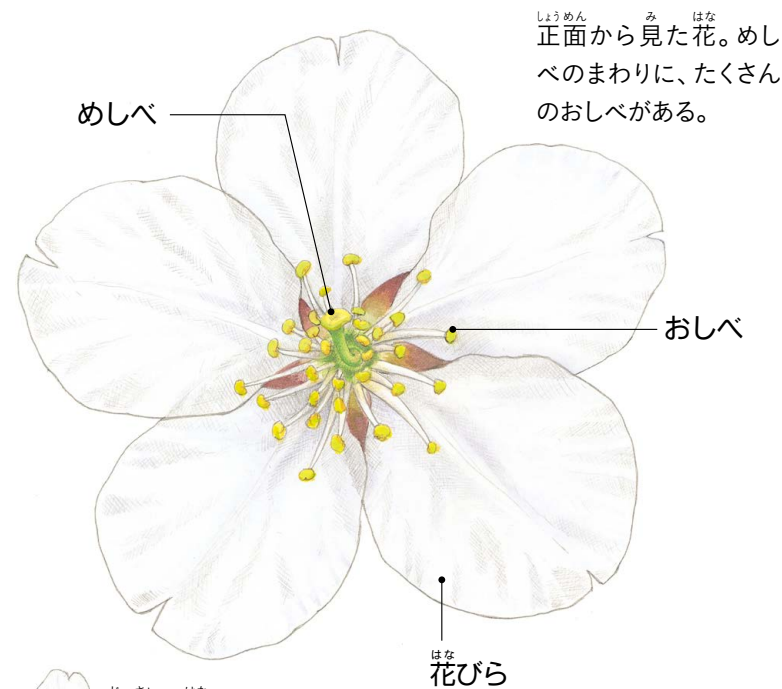
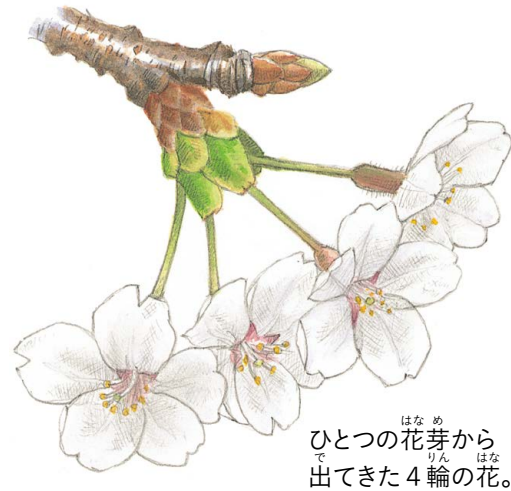
はな さくらの花はどのようなすがたをしているのでしょうか。
‘そめいよしの’を例に見ていきましょう。

はな かた しょうめん み 花のつき方と正面から見たすがた

はな さくらの花は、ひとつの花芽に3～5輪の花がまとまってつきます。

ひとつの花に花びらは5まいあり、花びらの先はふたつに分かれています。花のなかには、花粉をつくるおしべが15～40本ぐらいあり、中心にめしべが1本あります。

また、花の色は、さきはじめは白く、散りぎわは赤っぽく変わります。

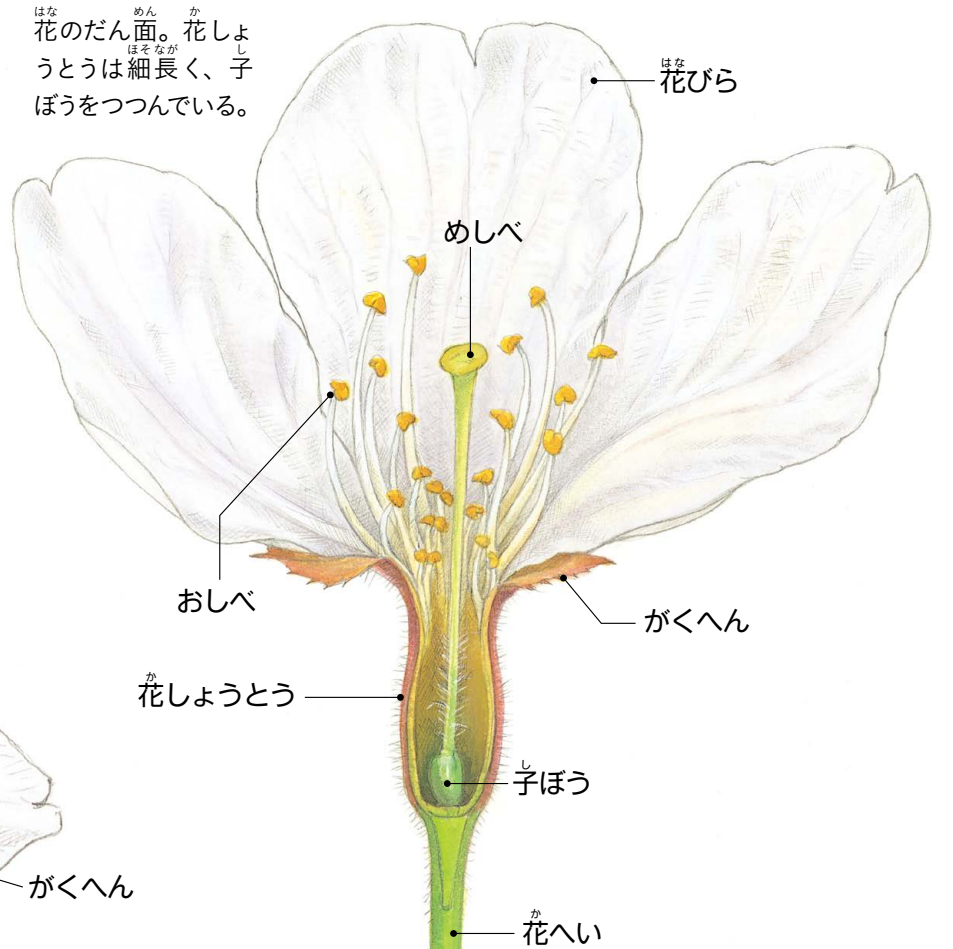
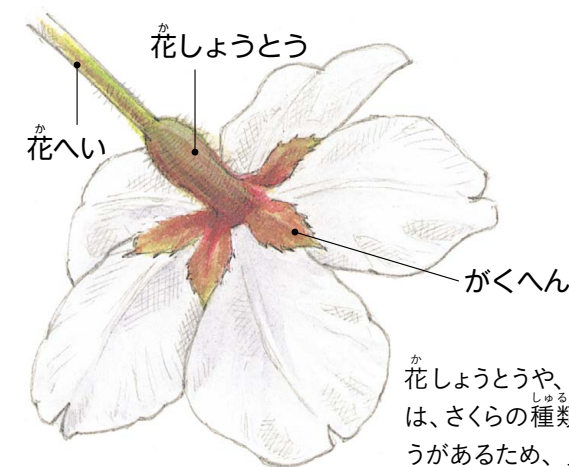


はな 花のなかはどうなっているの？

はな さくらの花をたてに切ってみましょう。花びらの下が長いつつのようになっています。これを「花しょうとう」といいます。

めしべのもとには、のちに実になる子ぼうがあります。花粉がめしべの先につくと、めしべのものと子ぼうがふくらみ、実ができます。

また、花しょうとうの内側にはみつがあり、みつを求めて虫や鳥がたくさん花におとずれます（→36ページ）。



さくら や え 八重ざきのさくら

はな 花びらがたくさん重なってさく「八重ざき」というさき方のさくらがあります。花のふさが、丸くて大きいため、「ぼたんざくら」ともよばれます。

八重ざきのさくらには、「かんざん」（→32ページ）や「ふげんぞう」（→33ページ）などのさいばい品種（→30ページ）があります。



‘かんざん’という名前の八重ざきのさくらの花。